無断転載・無断複製を禁ず

2023年度後期（第13回）12月実施
キャリアコンサルティング技能検定

１級　実技（論述）試験

実 施 日 ◆ 2023 年 12 月 10 日（日）

試 験 時 間 ◆ 14：30～15：50（80 分）

★注意事項★

1. 本試験の出題形式は、記述式5問です。
   事例を読み、解答用紙の設問ごとに記述してください。
2. 解答用紙の受検番号・氏名に誤りがないか、確認してください。
3. 試験中は、受検票、腕時計（スマートウォッチの使用は不可、音を発しないもの）、筆記具（黒の鉛筆またはシャープペンシル（これ以外の使用は不可））、消しゴム以外のもの（定規、メモ用紙、筆記用具入れ等）は机上に置かず、カバンの中などにしまってください。
4. 受検票は、机上の通路側に見えるように置いてください。
5. 試験室内では、携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等すべての通信機器および電子機器、時計のアラーム等、音の出る機器は使用禁止です。必ず電源を切り、カバンの中などにしまってください。
6. 試験中は、乱丁・落丁・印刷不鮮明に関する質問以外はお受けできません。
7. 不正行為があったときは、すべての解答が無効となります。
8. 試験終了の合図が告げられたら、直ちに筆記具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
9. その他、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、失格となります。

【退出時の注意事項】

1. 試験開始後30分経過した時点で途中退出できます。途中退出する場合には、挙手し、試験監督者の指示に従ってください。問題用紙はお持ち帰りください。
2. 試験終了時刻 5 分前からは退出できません。試験終了後、試験監督者が解答用紙を回収しますので、着席したまま静粛にお待ちください。

○　実技試験の合格は、論述試験および面接試験の両方とも合格基準に達することが必要です。
○　2024年3月21日（予定）に、受検者全員に合否通知書を送付いたします。
　　合格者は当協議会のウェブサイトに受検番号を掲載してお知らせします。
　　（https://www.career-kentei.org/result/）

厚生労働大臣指定試験機関
特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会
〒105-0021　東京都港区東新橋2丁目11番7号　住友東新橋ビル5号館9階　TEL03-5402-4688

次の文章は、事例相談者Ｂが相談者Ａとのキャリアコンサルティングについて事例指導をうけるためにまとめたものである。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙に記述すること。

試験問題で使用される用語について

＊**事例相談者**とは、キャリアコンサルタントのことを指し、自分が実施したキャリアコンサルティング（事例）に関して、面談過程、事例の見立てや対応方針、環境への働きかけ等について相談をする人のことです。

＊**相談者**とは、自らの進路相談、職業相談、人事労務に関する相談など、キャリアに関する相談に来た人のことで、事例に登場する人を指します。

【相談者Ａ】

男性（42歳）、情報系の大学を卒業した後、新卒で社員数約700人のＩＴ企業に入社。システムエンジニアとして勤務し、現在は主任。プロジェクトリーダーとして６年目。

【相談者Ａの職場や家族等の状況】

妻（41歳）、長女（14歳）、次女（12歳）の４人家族。勤務する会社には人材開発部門にキャリア相談窓口があり、希望者はキャリアコンサルタントの資格を有するシニア社員との面談を受けることが可能。

【事例相談者Ｂ】

男性（62歳）、大学卒業後、Ａが勤める会社にシステムエンジニアとして入社し、事業部長まで務め60歳以降は再雇用社員として、社員のキャリア相談を受けている。キャリアコンサルタントの資格を取得し、現在相談歴2年。

【事例相談者Ｂが事例指導者に相談したいこと】

Ａの翌月の予約はキャンセルとなり、その後連絡がないことが気になっている。温かい雰囲気で話を聴くことに注力したが、予算管理が苦手だという訴えに対して「予算管理のどこが苦手なのか詳細を見てみよう」と次回の面談に向けて課題設定をしたことが負担だったのかもしれない。自分の対応に何か問題があったのではと気になっているため、指導を受けたい。

【事例】

Ａは某開発プロジェクトのリーダーとして、部下３人、協力会社２人の５人のメンバーを取りまとめている。プロジェクトマネージャーを務める直属の上司である課長から「そろそろ管理職になることを見据えて、次のプロジェクトでは私の補佐役として予算管理を担当してほしい」と指示されたとのことだった。

しかし、Ａは「昔から予算管理に対して強い苦手意識がある」とのこと。顧客とのやりとりや、メンバーへの指示や指導は嫌いではないし、自ら率先してプレイヤーの作業も行うが、とりわけお金の話になるとプレッシャーを感じて思うように仕事ができなくなると訴えた。Ｂは「予算管理に苦手意識があるのですね。実は同様の相談って結構多いんですよ。管理職にとって避けられない業務ですもんね」と笑顔で応え、さらに詳しく話を聴いた。

Ａは過去にも何回か予算未達のプロジェクトを経験しているが、顧客に対してより良いものを作ることに意識を向けていたので、予算管理に関してはあまり気にしていなかったようである。当然、予算を達成し、利益を上げなければ事業が成り立たないことは分かっているが、その責任を自分が担うのは非常に荷が重いとのこと。もし管理職になったらずっと予算に関わることになるため不安が大きい。ただ、２人の娘がまだ中学生で、妻は専業主婦。「自分の給料だけで生活しているので、管理職にならないと収入が増えないから悩ましい」と、Ａは力のない声で訴えた。

Ｂは穏やかな口調で「でも、今いる管理職たちは全員通ってきている道ですよね」と伝え、「その思いを課長に相談したことはあるのですか」と尋ねた。Ａは「はい、課長に話したら『大丈夫だよ、私も苦手だったけど、なんとかなるものだよ』と言っていました」とのこと。Ｂは「そうですか、実は私も予算管理は苦手でした」と優しい口調で答えた。

Ｂは「もし管理職にならないとすると、どういう未来が見えて来ますか」と質問したところ、Ａは「ずっとプレイヤーとして働いて、スペシャリストでやっていければと思います。でも、給料はあまり増えないので、どこかで転職を考えないといけなくなるかもしれません」と答えた。Ｂは「なるほど、そうなると家庭でも予算管理が重要になりますね」と笑顔で伝えると、Ａは苦笑いの表情を浮かべた。

Ｂは「そうしたら、次回は予算管理の何に苦手意識があるのか、もう少し詳しく見ていきましょう。そこが解消できたら、仕事でも家庭でも役立ちますよね」と伝え、翌月に相談の予約を取った。しかし、Ａからは「業務多忙で行けない。また必要に応じて予約を取らせていただきます」とキャンセルの連絡が入った。

【事例相談者Ｂの所感】

Ａは責任感が強く仕事ぶりもきっちりしているが、考え方に余裕がないと感じた。自分自身の経験からも、予算管理についてＡは難しく考えすぎの印象があったため、面談ではまずＡとの関係構築に努め、予算管理について受け入れやすいように、そしてもう少し気楽に考えられるように、家計管理に喩えて話を持って行った。ただ、翌月の予約はキャンセルとなったことから、自分の対応に何か問題があったのではと気になっている。

問1　相談者Ａが訴えた「問題」は何か、記述せよ。（10点）

問2　あなたが考える見立てに基づき、相談者Ａが「問題」を解決するために取り組むべきことは何か、記述せよ。（20点）

問3　相談者Ａを支援するために必要なネットワークは何か。相談者Ａの置かれた環境への働きかけについて関係機関や関係者との連携も考慮し、記述せよ。（20点）

問4　事例相談者Ｂの相談者Ａへの対応について「問題」だと思うことは何か。事例に基づいて記述せよ。（25点）

問5　問4で挙げた事例相談者Ｂの「問題」だと思うことの中から優先するものを取り上げ、具体的な指導方法を記述せよ。（25点）

© 2023, Career Consulting Conference